

<30年度事業計画> **法人全体の運営と事業**

項目	「第13回通常社員総会」開催
内容	2017(平成29)年度の事業報告、決算報告、会費報告、のほか、定款変更の審議を行う。 2018(平成30)年度の事業計画、収支予算、役員増員の報告を行う。
概要	【日時】 2018(平成30)年5月13日(日) 16:00～17:00 【会場】 しいの実シアター

項目	理事会開催
内容	およそ年に4回～6回、理事会を開催しNPOの運営について協議を行う。

項目	あかりを楽しむ夕べ
内容	シアターと演劇祭をより魅力的にするため、照明家の角館まさひで氏の指導を受けて、実験的なライトアップを実施。総会関係者や支援者へ「あかりを楽しむ夕べ」を提供。 【角館氏プロフィール】 (照明家、東京都市大学工学部客員教授、まちづくりアドバイザー、ほんぼり光環境計画代表取締役)
概要	【日時】 2018(平成30)年5月13日(日) 17:00～17:30 角館氏の講演 18:00～20:00 あかりを楽しむ夕べ 【会場】 しいの実シアター及びロビー・エントランス

項目	やくもネット事務局とポータルサイトの運営
内容	やくもネットの事務局として、八雲町内各団体の運営を支える活動を行う。 八雲町の情報発信ツール「ようこそ八雲へ」での情報発信を行う。

項目	島根演劇ネット事務局
内容	島根演劇ネットの事務局として、運営を支える活動を行う。 島根文化団体連合会の加盟団体として、「次世代育成事業」の事務局も行う

① 学校		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講師	島根県立大学短期大学部 保育学科	H30/4/6	県立大学短期大学部 体育館1F 講義室	2名	52名
講師	島根県立大学短期大学部 「表現とコミュニケーション」講座(前期)	H30/4/～7/ 13回	県立大学短期大学部 体育館アリーナ	のべ39名	のべ460名
講師	島根県立大学部4年制人間科学部1年 「表現とコミュニケーション」講座(前期)	H30/4/～7/ 13回	県立大学短期大学部 体育館アリーナ	のべ39名	のべ460名
講師	第1回ファミリ-サークル「表現あそび」	H30/5/下旬	八雲町 どんぐり館	1名	20名程度
講師	星キラMama事業(在宅母子育成事業)	H30/5/未定 H30/12/未定	八雲町 どんぐり館	1名	延べ 40名程度
講師	松江市立美保関中学校	H30/6/13	松江市・美保関中学校	1名	28名
講師	松江市立八雲小学校 (1年から3年生)	H30/6/ ほか未定	松江市・八雲小学校	延べ15名	延べ 720名程度
講師	松江市市立八束学園	H30/6/1 H30/9/19 H30/12/7	松江市・八束学園	延べ18名	延べ276名
講師	飯南町頓原中学校	H30/6/6 H9/9/27	飯南町頓原中学校	延べ4名	延べ55名
講師	大田市久手小学校 (全学年対象)	H30/6/29 H30/9/5 H30/11/6	大田市久手小学校	延べ17名	延べ300名
講師	松江市立八雲中学校 (全学年対象) コミュニケーション・ワークショップ	H30/10/29	しいの実シアター	1名	300名程度

② 企業、地域、PTA、その他		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講師	まつえ市民大学 健康コース	H30/5/24	松江市民活動センター 多目的ホール	2名	60名程度
講師	患者と看護スタッフとのワークショップ	H30/5/未定	益田市松本医院	1～2名	20名程度
講師	JA出雲 JA女子大学	H30/6/13	未定	1名	15名程度
講師	平成30年度 プラバ音楽の学校 「音でコミュニケーションアップ！」	H30/6/21	プラバホール	2名	50名程度
講師	平成30年度保育士キャリアアップ研修 新任保育士向け保育実践	H30/8/20	島根県立大学・松江	2名	80名程度

その他、依頼のあったところへ出かけて行きます。

<30年度事業計画> しいの実シアターの管理運営事業

松江市の指定管理者として、「しいの実シアター12年計画」を作成しました。
30年度からは、この新しいミッションとビジョンにそって活動を推進します。
これにより、2029年の第10回の演劇祭が終了する頃には、<演劇による人づくり・まちづくり>が一層進化していると思います。

しいの実シアター（108席）のミッション

しいの実シアターは、次の3つに主眼をおいて
<小さな劇場でも、志高く活動すれば夢は実現する>と信じて
地域の人々と共に、独自の劇場文化を創ります。

共に育ち合う劇場

劇場スタッフ・専属劇団・松江市行政は、地域の人々を巻き込んで、共に育つ活動を行います。

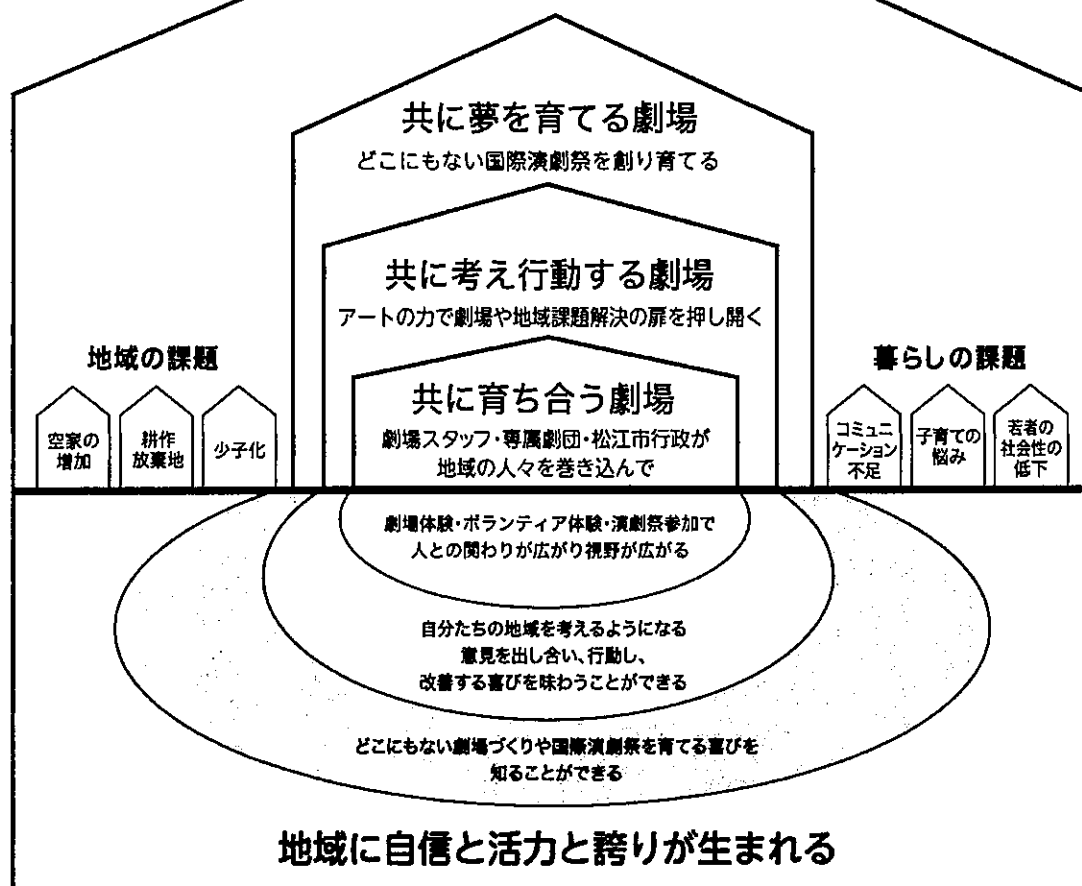
共に考え行動する劇場

アートの力を取り入れて共に考え行動して、劇場や地域の課題解決の扉を押し開きます。

共に夢を育てる劇場

どこにもない独自の国際演劇祭を育てて、地域未来に自信と活力と誇りを生み出します。

地域の人々と共に 独自の劇場文化を創る



しいの実シアターのビジョン

6 年 後 (2020 年の第 7 回松江・森の演劇祭を開催し、2023 年の第 8 回の終了までに)

	ビジョン	方針・戦略
事業	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術に無関心だった人たちが、小さな劇場に親しんで様々な事業に参加している。 ・クオリティが確保された「ゼロ弾きのゴーシュ」の上演依頼が全国からきている。 ・専属劇団の新作が高く評価されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・0 歳から高齢者までの全年代対象の作品を上演し、聴覚・視覚障がい者対応作品を増やす。 ・「ゼロ弾きのゴーシュ」は、個性的俳優を国内から招き、専属劇団員に新たな刺激を与える。 ・松江市行政と連携を密にして、松江市民及び松江市職員に劇場情報が行き渡るようにする。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々と劇場スタッフが様々な事柄を話し合っている。 ・演劇祭運営が年々進化して地域の人々が開催に向けて協力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場の若いスタッフも様々な会合に参加して、地域の人々との関係性を深める。 ・課題解決にアートの力が役立つことを広めていく。
経営	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンドレイジング手法の改善が進み、新方式で財源確保が進み、収支バランスが良い。 ・劇場への観客輸送が整備されて、人々は気軽に劇場を訪問することができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全事業について、収支の見直しを進め、改善する。 ・独自の「資金積立計画」による資金集めを継続する。 ・演劇祭運営について松江市と連携を強化する。 ・観客輸送計画を実施に移す。
人材	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアリーダーの成長が目覚ましい。 ・顧客開発に励む人材や、舞台・照明・音響の専門スタッフが養成・確保されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアリーダー、劇場専門スタッフを国内研修に派遣する。 ・希望により海外研修も実施する。 ・顧客開発担当が地域に出て、収入に繋がる活動を行う。
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場スタッフは、働くことに希望を持ち、十分な休暇取得ができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務に合った変形労働時間体制により、休暇取得を容易にする。賞与支給を開始し、退職金積立制度をスタートする。

12 年 後 (2026 年の第 9 回松江・森の演劇祭を開催し、2029 年の第 10 回の終了までに)

	ビジョン	方針・戦略
事業	<ul style="list-style-type: none"> ・創造的で独自性のある事業を実施しており、様々な人が、事業に参加している。 ・小さいがどこにもない演劇祭となり、観光・インバウンドと繋がって、国内外から家族連れ等が連泊で訪れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場スタッフは、地域の人々の思いや提案をもとに、「交流人口」「関係人口」「活動人口」「感動人口」の増加に繋がるよう話し合っ、地域未来に活力と誇りが生まれるような事業計画を創り実施する。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々は、劇場スタッフと諸課題の解決策を実施している。 ・国内外からの観光客が地域の B&B に宿泊している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々が日常的に劇場を訪れるようにし、共に課題解決に取り組む。また、民宿についてのノウハウを完成させる。
経営	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人々が劇場の未来に夢を託して支援、協力している。 ・劇場スタッフは、積立資金はもとに、小さな夢から大きな夢へと進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・独自の「資金積立計画」の達成により地域の人々・松江市行政と共に、カフェ、レストラン、駐車場を完成させ、平原会館を人形劇場に、かやぶき交流館を劇場に改築するなどの環境整備を進める。
人材	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアリーダーのプロ化が達成されている。 ・劇場スタッフは、20代から60代までの専門人材が揃っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア研修と演劇祭継続により、専門人材を育成する。 ・劇場スタッフは、様々な研修により検定・資格をもつようにする。
雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな劇場で働きたいという夢をもった若い人が、全国から集まっている。 ・劇場スタッフは、心豊かな暮らしが保証され、生き活きと活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロとして活動できるボランティアリーダーを雇用する。可能性のある人材を育てて雇用する。 ・給与・賞与は、松江市職員並みにする。

◇地域の特性・ニーズ、施設の強み、特色◇

<地域の特性>

●劇場と国際演劇祭への理解が進んでいる

劇場が位置する八雲町は、都市近郊農村である。地域住民の気質は穏やかではあるが、平成7年の劇場オープン時は、よその意思で造られた劇場(総工費3億円)であったため、「演劇で何がかわるか」「文化で飯は食えない」と言う人もあった。だが、松江市との合併後は、人口20万人の市立劇場として、劇場の存在と国際演劇祭の開催を受け入れて、大いに親しまれるようになってきた。海外劇団員のホームステイ時に30軒の家庭が7泊8日の宿泊に協力するなど、お互いに支え合ってきた地域特性といえる。

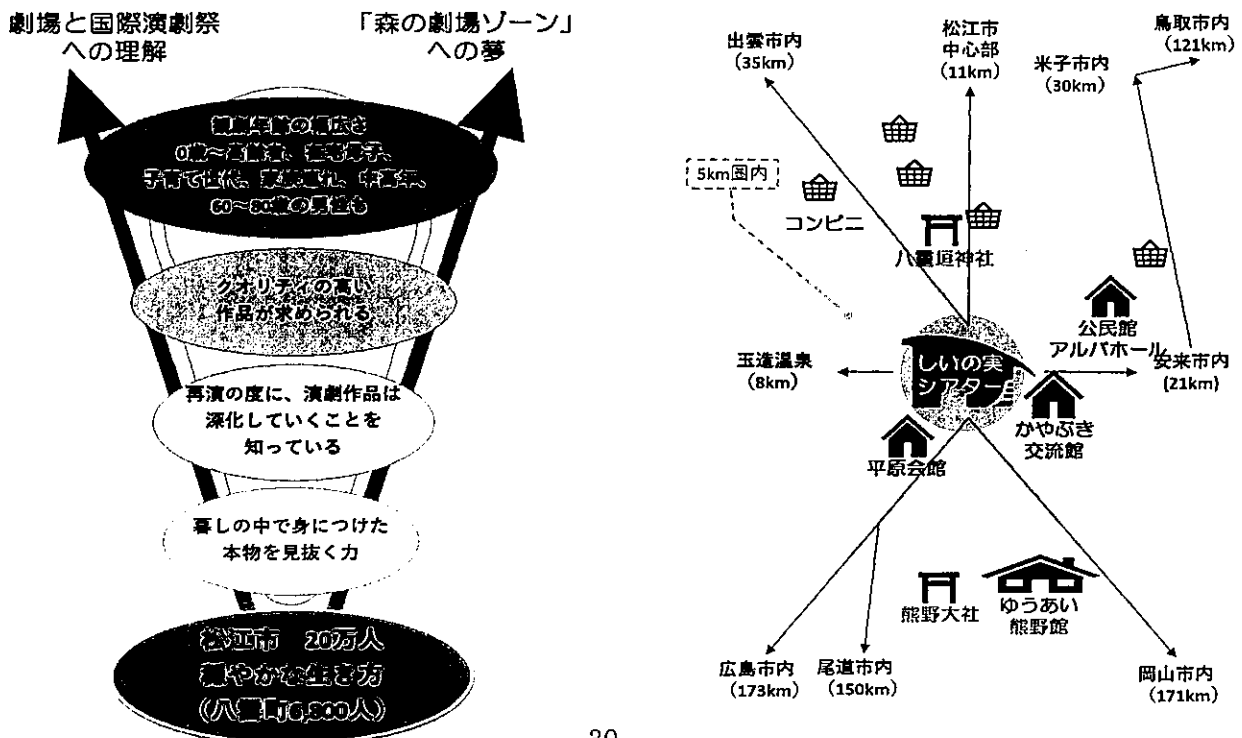
●「森の劇場ゾーン」づくりに夢を持っている

劇場は、JR松江駅から車で20分の中山間地の丘の上に位置し、周辺にはホテル・カフェ・レストランもなく、コンビニは4キロ遠方にある。事業を行う土曜日・日曜日は、公共交通機関が全面運休する。このようなマイナス面が多々ある一方、劇場近辺には、築120年のかやぶき屋根の交流館(市立)があり、国内外の人たちの交流の場に最適だ。

また、地区の集会所である平原会館は、乳幼児のための人形劇場にすれば劇団・観客両者にとって文句なしの施設となる。加えて、北は松江市の中心部、東は米子・鳥取、西は出雲、萩、山口、南は広島・尾道など道路が放射状に伸びている。マイナス面を知恵と工夫で補えば、多大な可能性を持っている。劇場関係者は、ボランティア、地域の人々と共に、「森の劇場ゾーン」を創りたいと、これからの将来に夢を持っている。

<ニーズ>

市民は、ロングラン作品の「セロ弾きのゴーシュ」を複数回観劇している人も多く、演劇は再演の度に深化していくことを理解するようになってきている。演劇に興味が無かった人々も、海外作品を観るようになってきた。松江市民は、歴史の深い地に住み、風雪に耐えた自然の些細な変化を見つめながら暮らしてきたからか、「それらしい演技」や「真実でない演技」の嘘を見抜く力を持っている。良質でクオリティの高いものが求められている。また、18年間に、通算7回の国際演劇祭を開催した成果もあって、0歳から高齢者まで、在宅母子、子育て世代、家族連れ、中高年、60~80代の男性も、公演や演劇祭を楽しみにするようになってきている。



◇しいの実シアターの強み・特色「地域の人々との多様な関係」◇

森の中にある木造りの小さな劇場(108席)そのものが当館の強みで、国内のどこにもないものだ。しいの木で作ったベンチは大人2人掛けだが、幼児の場合は、仲良く3人で座って観劇することができる。

子どもにも愛され、高齢者にとっても観やすく聞き取りやすい劇場で、演劇を観たことがない人でも1度の観劇で心を動かされる。劇場の回りでは、春はお花見、夏は虫取り、秋は木の実拾いと落ち葉遊び、冬は雪ダルマづくりで楽しめる。創立51年の専属劇団あしぶえは、当館建設以前から松江市全域の団体、機関等との関係を育ててきており、劇場建設後は、図表のように、多くのステークホルダーと多様な関係性を構築してきている。



④関係・連携が密接なものは太線で表し、点線はこれから力を入れていくところ。

＜30年度の目標＞

1. 「ゼロ弾きのゴーシュ」岩手公演を土台に、平成31年のブルガリア公演を目指す

「ゼロ弾きのゴーシュ」は、28年間におよそ4万人の観客を記録し、アメリカ、カナダの国際演劇祭のコンテストでは、第1席など6つの国際賞を受賞している。

30年度は9月に、宮沢賢治のふるさと、岩手公演を実施する。国内有数の演劇専用ホールである「銀河ホール」から招待されたもので、しいの実シアターや国際演劇祭をPRする良い機会となるだろう。この貴重な体験を経て、31年10月には、ブルガリアの首都ソフィアでの公演を予定している。これは、日本・ブルガリア国交60周年を記念して、日本文化の日に招待されるもので、「松江・森の演劇祭」をPRする絶好のチャンスと期待される。

2. 社会実験として、しいの実シアターのライトアップを実施する

しいの実シアターは、森の劇場として松江市民に愛されるようになってきた。今後、より愛され、より多くの来場を促すために、劇場周辺のライトアップを実施する。アドバイザーとして、照明家・まちづくりアドバイザー・ぼんぼり光環境計画(株)の角館まさひで氏を招へいし、低予算で最大の効果が得られるようなライトアップを行う。

5月13日に初回の実験を行い、順次、シアターの夜公演時などに実験を重ねていき、2020年の「第7回松江・森の演劇祭」では、ライトアップ計画を完成したい。

具体的な事業は下記のとおりです。

- ①人材養成事業
- ②自主事業
- ③職員人材育成のための研修
- ④建物管理、樹木管理

30年度については、予算の関係上、公演事業及び普及啓発事業は、「松江・森の演劇祭の運営に関わる事業」に記載しています。



人材養成事業

事業番号	人材養成事業 1		
事業名	アートマネジメント講座（国際演劇祭）	分野	演劇
趣旨・目的	国際演劇祭の新リーダーレベルアップのためのアートマネジメント講座を実施する。さらに、ボランティアリーダー養成の役割を担う劇場専門スタッフのマネジメント力向上にも力を入れていく。		
事業の概要	実施日程、実施会場、実施回数、出演者・スタッフ等		
	<p>【日程・会場】</p> <p>①「森の演劇祭」を題材にした講座 平成30年4月～8月（4回）</p> <p>② 沖縄「りっかりっかフェスタ2018」でのOJT形式での講座 平成30年7月（3日間）フェスタ各会場（沖縄県那覇市）</p> <p>【講師】</p> <p>① 園山土筆</p> <p>② 下山久（りっかりっかフェスタプロデューサー）ほかスタッフ</p> <p>【対象】</p> <p>①ボランティアスタッフ 12名</p> <p>②劇場スタッフ、ボランティアスタッフ 4名</p>		

事業番号	人材養成事業 2		
事業名	コミュニケーションワークショップリーダー養成講座	分野	演劇
趣旨・目的	近年、小・中・大学等どの年齢層も自ら能動的に他者に関わろうとする力が低下傾向にある。また、子どもたちの日々の暮らしの中で、異世代との交流がないために、自分と相手の考え方が違うということや、自分の言動や表情によって相手に与える印象が変わるということが分からなくなっている。IT機器の進化によって、人と話すことにコンプレックスを感じているのは、子どもから大人まで多く、その苦手意識から更に話す機会が減り、悪循環となっている。こういった状況の中で、表現授業やコミュニケーションワークショップの開催希望が年毎に増加している。そのため、ワークショップ講師の需要は増えており、このような社会のニーズに応えていくため、講座を継続していく。		
事業の概要	実施日程、実施会場、実施回数、出演者・スタッフ等		
	<p>【日程】平成31年1月～3月（1回）</p> <p>【講師】高尾隆氏 東京学芸大学芸術・スポーツ科学系音楽・演劇講座演劇分野准教授。 1974年松江市生まれ。専門は、演劇教育、インプロ。 インプロをキース・ジョンストン氏などに師事。学校、劇場、企業、地域、福祉施設などでインプロ・ワークショップを行っている。</p> <p>【対象】コミュニケーションワークショップに興味のある人</p>		

事業番号	人材養成事業 3		
事業名	演劇公演創造講座	分野	演劇
趣旨・目的	<p>松江市近辺では、演劇を総合的に学ぶ機会がない。単発の舞台技術講座はあっても、上演するところまでは実施されていない。一般の公立劇場は多目的な利用が多いため、ホームグラウンドとしての親しみは持てないが、シアターで長期講座を実施すれば、自分たちの劇場としての愛着も湧いてくるはずだ。そのため、劇づくりまでを総合的に学ぶ機会をつくる。</p>		
事業の概要	<p>実施日程、実施会場、実施回数、出演者・スタッフ等</p> <p>【日程】① 音響講座 平成 30 年 6 月～8 月 (1 回) ② 照明講座 平成 30 年 11 月 10 日 (土) 11 日 (1 回) ③ 公演講座 平成 30 年 6 月～12 月 (20 回)</p> <p>【講師】① 音響講座 奥隆史 (株式会社篠本照明) ② 照明講座 岡本敦 (株式会社篠本照明) ③ 演技講座 園山土筆、有田美由樹、前村晴奈、中村千恵子、門脇礼子 (いずれも専属劇団員)</p> <p>【対象】演劇公演に関わってみたいと思っている人</p>		

事業番号	人材養成事業 4		
事業名	「高校演劇部」支援事業	分野	演劇
趣旨・目的	<p>シアターオープン翌年の平成 8 年から、県高文連演劇部門松江地区盟 7 校の演劇部が毎年 3 月に合同公演を行っている。この公演に 22 年間全面的に支援してきた。大劇場では、舞台機材も高価であるため生徒が自由に使用できない。それに対して、シアターは小劇場で、音響・照明も自由に使用させている。また、機材の果的な使用方法も指導しているため、生徒たちは合同公演を楽しみにしている。こうした活動のレベルアップを図りたい高校演劇部のために、劇場の専門人材を講師として演出、演技、照明、音響、表方等について指導する。</p>		
事業の概要	<p>実施日程、実施会場、実施回数、出演者・スタッフ等</p> <p>【日程】平成 31 年 1 月～3 月 (全 3 回)</p> <p>【講師】園山土筆、有田美由樹、中村千恵子、前村晴奈、門脇礼子、黒田徹</p> <p>【対象】松江南高校、松江東高校、松江商業高校、松江工業高校、開星高校 情報科学高校、松江農林高校、安来高校の演劇部員約 60 人、 教員 20 人</p>		

事業番号	人材養成事業 5		
劇場・音楽堂等の名称	松江市八雲林間劇場 (しいの実シアター)	➡	島根県立いわみ芸術劇場 (グラントワ)
研修分野	舞台技術の専門性を高め、他劇場の企画、制作、広報、運営手法を学ぶ。		
事業の概要	実施概要(趣旨・目的)		
	シアターでは、舞台技術の専門性を持った若いタッフの育成が急務となっている。旅公演などでは、少人数・短時間で効果的に技術セッティングすることが求められる等、形態の異なる劇場に対応する力量も必要になってきた。常勤スタッフの舞台技術レベルの向上を図り、公演先での費用軽減のほか、貸館利用の拡大や、専属劇団の創作のレベルアップにつなげたい。		
	【研修内容】		
	・舞台技術(舞台、音響、照明)に関わる業務全般。 より実践的な研修が可能と思われる事業開催日と合わせて、事前打合せ～仕込み～本番～バラシまで一連の流れを学ぶ。		
	・制作(企画・制作・広報・運営)に関わる業務全般。		
	派遣・受入/招へい・派遣期間		
【派遣期間】①平成30年8月17日(金)～23日(木)(6日間) ②平成30年9月～平成31年2月のうち1回(6日間)			
派遣職員・受入職員・招へいする職員・派遣する指導員			
	役職	氏名	経験年数
	職員	前村晴奈	劇場勤務2年



人材養成事業 6

インターシップ 実施	大学の名称	中国圏内の数校
	受入人数	5人
	研修分野	文化政策、地域づくり、芸術創造
講師等の派遣	大学名称	島根県立大学、短期大学部
	派遣人数	3人
	講義名	表現とコミュニケーション

【インターシップの実施】

2018年9月～3月（6回） しいの実シアター

【講師等の派遣】

【短期大学部】

保育学科の42名が対象。社会での「就業力」育成と、自ら人間関係をつくり育てるために、「表現・コミュニケーション能力育成」ワークショップを行う。単位認定も実施。

平成30年4月～6月（13回）園山土筆、有田美由樹、前村晴奈

平成30年4月（1回）有田美由樹、前村晴奈

島根県立大学短期大学部体育館

【4年制】

人間科学部保育教育学科の43名が対象。単位認定実施。

平成30年4月～6月（13回）園山土筆、有田美由樹、前村晴奈

島根県立大学短期大学部体育館

その他、貸館事業を推進します。



<30年度事業計画> かやぶき交流館の管理運営事業

<目標>

しいの実シアター及び町内の各種事業と連携して利用増に努めます。

項 目	「鯉のぼりイベント」にあわせての連携事業
内 容	八雲町では4～5月、地元の「八雲ゆう人会」が中心となって日吉地区の意宇川に鯉のぼりを掲揚するイベントが開催される。一昨年より町内の各施設、団体に鯉のぼりセットを提供し、各地域で鯉のぼりの掲揚協力を求めている。当施設も自費で、掲揚ポールを設置、掲揚した。こういった連携により集客につなげることができている。30年度も、スタンプラリーが実施されるので、ラリー会場としても協力する。
日 時	2018（平成30）年4月22日～5月19日 鯉のぼり掲揚、スタンプラリー実施

項 目	「セロ弾きのゴーシュ」公演と連携してレストラン運営を
内 容	しいの実シアターで上演される「セロ弾きのゴーシュ」の観劇前後に、かやぶきへの集客を促す。「松江そば打ち研究会」の協力により、蕎麦の昼食を提供する。これに合わせて、コーヒーや菓子等の提供も行う。
日 時	2018（平成30）年9月23日、10月28日（いずれも日曜日）

項 目	「女流4人展」開催に合わせての連携事業
内 容	広島等で活躍する手芸アーティストの作品展が開催されるに合わせて、「セロ弾きのゴーシュ」の観客を、かやぶきへ促す。
日 時	2018（平成30）年10月6日（土）～8日（月）

項 目	「来て！見て！やくも収穫祭」開催に合わせての連携事業
内 容	収穫祭実行委員会主催の事業に連携参加して、ランチ&カフェを実施する。
日 時	2018（平成30）年11月11日（日）

項 目	「趣味の活動」事業を開催
内 容	和紙を繊細に切って、昆虫や様々な絵柄を表現する「きり紙あそび」及び羊毛を使って果物や野菜、動物等を創る「チクチクあそび」講座を開設する。
日 時	2018（平成30）年6月～8月 第2土曜日

<30年度事業計画>松江・森の演劇祭の運営に関わる事業

30年度は、演劇祭をより発展させる目的により、公演事業及び普及啓発事業は、「松江・森の演劇祭の運営に関わる事業」として実施します。

公演事業

事業番号	公演事業 1		
事業名	幼稚園・保育園連携公演 「かえるくんかえるくん」	分野	演劇
		創作種別	再演
趣旨・目的	<p>幼少期の様々な体験の中で、特に舞台芸術にふれる体験は、本人の記憶には残らないかもしれないが、その人の人間形成には大きく影響するはずだ。その意味からもしいの実シアターが地域の幼稚園・保育園と連携し、劇場において鑑賞機会を提供する必要性は非常に高い。子どもの頃に良質な作品を、演劇専用劇場で観る経験が、子どもの発達に役立つことを幼稚園教諭や保育士、保護者らと共有する。</p> <p>未就学児には、立場が違うことによって誤解が生じることや、他者との信頼関係の尊さなどを言葉として伝えることはできないが、人形劇の登場人物に共感することで、疑似体験として学ぶことができる。人口減・少子化の現実があるにも関わらず、島根県内の公立ホールでは子どものための事業が非常に少なく、当事業の重要性は高い。</p>		
事業の概要	実施日程、実施会場、実施回数、出演者・スタッフ等		
	<p>【演目】「かえるくんかえるくん」</p> <p>【作】マックス・ベルジュイス（翻訳／清水奈緒子）</p> <p>【対象】幼稚園・保育園児、在宅母子、地域の寿大学や地域寄合いの高齢者、地域施設の身体障がい者、精神障がい者など</p> <p>【日程】平成30年6月14日（木）～15日（金）（全2回）</p> <p>【上演】人形劇団ひぼぼたあむ</p>		



事業番号	公演事業 2		
事業名	文化施設・学校連携による 「セロ弾きのゴーシュ」公演	分野	演劇
		創作種別	新演出
趣旨・目的	<p>「セロ弾きのゴーシュ」を、宮沢賢治の故郷・岩手の西和賀町文化創造館銀河ホールで上演する。宮沢作品に精通している地元観客を対象に上演することで、作品の創造的奥行が深まったかどうか問われるよい機会である。</p> <p>また、地元・八雲中学校から「以前から全校生徒に観劇させたいと思っていたが、生徒の生活環境の格差によって鑑賞費用が負担できない生徒がいる。また、学校から劇場までの貸切バスの費用が捻出できない等の理由で観劇をあきらめていた」という声が届き、文化庁の助成金を申請して対応する。</p>		
事業の概要	実施日程、実施会場、実施回数、出演者・スタッフ等		
	<p>【演目】セロ弾きのゴーシュ（上演時間 60 分）</p> <p>【原作】宮沢賢治 【演出】園山土筆</p> <p>【会場】</p> <p>① 西和賀町文化創造館銀河ホール（岩手県）平成 30 年 9 月 1 日（土）1 回</p> <p>② しいの実シアター 平成 30 年 8 月 5 日、9 月 23 日、10 月 7 日、28 日 平成 30 年 10 月 29 日（月）松江市立八雲中学校全校生徒貸切（2 回）</p> <p>【上演】専属劇団あしぶえ</p>		

普及啓発事業

事業番号	普及啓発事業 1		
事業名	学校公演とベイビーシアター	分野	演劇
趣旨・目的	<p>シアターオープン時からの〈演劇による人づくり・まちづくり〉について、その「過去」と「現在」を、外部講師による評価・省察の上、未来を考える場をもつ。</p> <p>①学校公演をより広い範囲に波及させていくための試みについて考察する。</p> <p>②今後、より本格的に乳児向け舞台芸術（ベイビーシアター）を取り上げる計画であるため、その方策等について考えたい。</p>		
事業の概要	<p>【日程】平成 30 年 6 月 14 日（木）（全 1 回）19：00～21：00</p> <p>【講師】浅野泰昌氏（くらしき作陽大学講師）</p> <p>【講師】永野むつみ氏（人形劇団ひぼぼたあむ代表）</p> <p>【会場】しいの実シアター</p> <p>【対象】劇場スタッフ、専属劇団あしぶえ、演劇祭ボランティアリーダー おやこ劇場関係者、一般市民</p>		

事業番号	普及啓発事業 2		
事業名	しいの実シアター未来学校（第1期3年度）	分野	演劇
趣旨・目的	<p>シアターでは、平成28年度に「しいの実シアター未来学校」を開校し、「芸術体験」と「暮らし体験」の2本立ての体験活動を継続している。</p> <p>今回は人形づくりののち、自分で創った人形で簡単な人形劇を行い、感情を表現する楽しさを体験する。更に、劇場で照明や効果音も入れてみる。自由に表現活動を行い、人と係わる心地良さを体験することで、今後の暮らしも安定すると思われる。穏やかな気持ちで生活できれば、学力も向上していく。</p>		
事業の概要	<p>【日程】平成30年8月6日（月）～8日（水）（3日間）</p> <p>【会場】しいの実シアター、かやぶき交流館</p> <p>【講師】永野むつみ、大澤直（人形劇団ひばたあむ、俳優） 園山土筆、有田美由樹、中村千恵子、前村晴奈</p> <p>【対象】小学生～中学生</p>		

事業番号	普及啓発事業 3		
事業名	コミュニケーションワークショップ	分野	演劇
趣旨・目的	<p>社会の核家族化が進み、在宅母子は孤立化する傾向がある。そのため、育児での悩みを他者に相談できるような繋がりが求められている。そこで、地域の育児経験豊富な大人と在宅母子が共にお互いを知り、コミュニケーションがとれるようなワークショップを実施する。その際、介護施設に通っている高齢者や障がいのある人も一緒に参加してもらうよう働きかける。社会的弱者と呼ばれる人たちだが、繋がりを育てることで個々が孤立しないことを目的とする。</p>		
事業の概要	<p>【日程】平成30年5月～12月（全4回）</p> <p>【会場】松江市立八雲児童センター「どんぐり館」</p> <p>【講師】有田美由樹、前村晴奈</p> <p>【対象】在宅母子、地域の人、デイサービス利用者、障がいのある人</p>		

事業番号	普及啓発事業 4		
事業名	しいの実シアター 森のカレッジ 第3回「シェイクスピアってこんな人だった！」	分野	演劇
趣旨・目的	<p>29年度事業として「シェイクスピアってこんな人だった！」の第1回講座を開催した際は、講師・門野泉氏の情熱と解説の分かりやすさが奏功して大好評だった。今後、回を重ねる毎に参加者が増えていくはずだ。松江市周辺でシェイクスピアを学ぶ機会はほとんど無いため、大切な事業であると考えている。</p>		
事業の概要	<p>【日程】平成30年12月～平成31年2月（全1回）</p> <p>【講師】門野泉氏</p> <p>【対象】一般市民、高校生、大学生、松江・森の演劇祭ボランティア 劇場スタッフなど</p>		

30年度も、サポート会の皆様のご協力により、法人運営を進めていきます。

項目	サポート月例会
内容	サポート会の活動について話し合います。
概要	【日時】 毎月第1月曜（予定） 【会場】 しいの実シアター

項目	あかりを楽しむ夕べ
内容	シアターと演劇祭をもっと魅力的にするため、照明家の角館まさひで氏の指導を受けて、実験的なライトアップを実施。総会関係者や支援者へ「あかりを楽しむ夕べ」を提供。 【角館氏プロフィール】 (照明家、東京都市大学工学部客員教授、まちづくりアドバイザー、ぼんぼり光環境計画代表取締役)
概要	【日時】 2018(平成30)年5月13日(日) 17:00～17:30 角館氏の講演 18:00～20:00 あかりを楽しむ夕べ 【会場】 しいの実シアター及びロビー・エントランス

項目	「ゼロ弾きのゴーシュ」の公演サポート
内容	受付、もぎり、当日券販売、場内案内、グッズ販売、駐車場誘導などをサポートしていただきます。
概要	【日時】 「ゼロ弾きのゴーシュ」 2018(平成30)年8月5日、9月23日、10月7日、28日（いずれも日曜日）

項目	しいの実シアター草刈りのサポート
内容	しいの実シアター敷地内の草刈りをサポートしていただきます。
概要	【日時】 2018(平成30)年5月27日(日)

項目	「落ち葉集め」エコ活動のサポート
内容	敷地内の落ち葉を集めて、松浦造園(株)に回収してもらい、シアター樹木の施肥に活用する作業。サポート会、正会員、一般の方の協力を得て、毎年開催。
概要	【日時】 2018(平成30)年12月